



平成30年度東海ブロック研修会が
開催されました！

研 修 会 報 告

平成 30 年度 一般社団法人 日本介護支援専門員協会『東海ブロック研修会 in 愛知』が、平成 31 年 1 月 20 日(日)に、名古屋商工会議所ビル 2 階ホールにて開催されました。今回は、「地域包括を担うケアマネジャーに必要な多職種連携及び協働のための知識と求められる役割」をテーマに、午前中は特別講演として、厚生労働省 老健局 振興課 課長補佐 川部勝一先生による「居宅介護支援事業所等に必要な人材育成と運営管理」、教育講演として、国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部在宅医療・地域連携診療部 地域医療連携室長 西川満則先生、営利法人 指定居宅介護支援事業所レモンの樹大府 管理者 大城京子先生による「アドバンス・ケア・プランニングと介護支援専門員の取り組み」と題しての講演が行われました。午後は、①災害時の介護支援専門員の役割②アドバンス・ケア・プランニングにおける介護支援専門員の役割③認知症の利用者及び家族とのコミュニケーション④介護支援専門員研修の効果的な進め方、の 4 つに分かれて分科会が行われました。

今回は、午前の講演と午後からの分科会のテーマにもありましたように、アドバンス・ケア・プランニングについての内容がとても印象的で、本人の人生観・価値観を汲み取り、自分の意思を表明してもらうこと、選択・選好を相談して行うだけではなく、本人の価値観を聴くことが大切ということを学ぶ良い機会になりました。



平成 30 年度 第 3 回研修会

「災害から利用者を守るために～ケアマネジャーは何をするべきか～」



日時:平成 30 年 9 月 14 日(金) 10:00～ 場所:ヤマモリ体育館

講師:日本介護支援専門員協会認定 災害支援ケアマネジャー

倉田 理氏 川村 智美氏 小林 正和氏

今回の研修は、台風、地震と大きな災害が続いた時期に、非常にタイムリーな形で開催となりました。最初の講義では、近々起こってもおかしくないと言われている東海・東南海沖地震が発生した場合、桑名市沿岸部及び内陸部、いなべ市、東員町、木曽岬町と、各地域の特徴に合わせて、どのような被害が予想されるか、という講師からの問い掛けに対し各々が実際に考えてみるどころから始まりました。実際にその地域の関わりのある方々から話を聞いた後、東日本大震災や過去の水害などを例に想定される被害状況についての具体的な説明も行われ、被害想定についてのイメージもしっかりと固めることができました。グループワークでは生き残った人達を、どう支援するかという視点と被災直後のパニック状態の中で混乱している被災者からどのようにニーズを引き出していくのか、という課題を踏まえながら、発生直後から 1 ヶ月後までの期間をフェーズⅠ～Ⅲと区切り、その時期ごとに、どのような対応が求められるのか、ということについて活発に意見の交換が行われました。未曾有の危機に対する強い不安もありながら、そんな中で自分達ができることについて考える機会を持つことができ、非常に有意義な研修会でした。

平成 30 年度 第 4 回研修会

「多職種の異なる責務をフラットにつなぐ調整役

～本人の意思が大切にされるチームづくりを目指して～」

日時:平成 30 年 10 月 22 日(月) 13:30～ 場所:員弁コミュニティプラザ

講師:西東京市在宅療養連携支援センター にしのわセンター長 高岡 里佳氏



西東京市にて医療と介護の連携に日々取り組んでおられる高岡里佳氏を

お招きして「多職種の異なる責務をフラットに繋ぐ調整役・本人の意思が大切にされるチームづくりを目指して」と題して講義をいただきました。昨今、医療と介護の距離は近づいたと言われています。平成 30 年度の医療・介護同時改定で制度上医師の関与が大幅に増加。医療との連携・協働は必要かつ最低限の条件となり医療と介護はより一体的な関係になっていく。その中でケアマネジャーはどうあるべきなのか、どう変化していくべきなのかを高岡氏の実体験や実際の医療職の声を交えながらご説明され非常に親近感のある内容でした。

連携の基本は対話であり、対話とは自分が相手のことをいかに知らないかを知り、理解しようとしながら行うコミュニケーション。それぞれの立ち位置で知りたい情報が変わることが双方が理解していくことが大切であるとともに、ケアマネジャーとしては事実を伝えつつ医療職が欲しい情報を欲しい順番で伝えられるようにしていく。また平時より関わりを自ら持つようにしていく努力が連携を上手くやっていくコツであると教えていただきました。苦手意識は簡単には解決できないかもしれませんが、相手に変化を求めるなら、変わるのは自分であると考え、ケアマネジャーとしてやるべきことをやりきる努力に取り組むことは必要であると改めて感じる事ができる研修会でした。

最後に「ケアマネジャー次第で利用者の人生が変わる」。あなた自身、お願いしたいケアマネジャーはいますか。と、高岡氏。真に相手のことを考えられる、寄り添える自分になり、お願いされるケアマネジャーを、皆さんと一緒に目指していきましょう。

研 修 会 報 告

平成 30 年度 第 5 回研修会

「課題整理総括表の理解と基本的な活用について

～思考過程を学び、ケアプラン作成の根拠が説明できる～

日時:平成 30 年 12 月 11 日(火) 10:00～

場所:桑名福祉センター

講師:株式会社 日本総合研究所創発戦略センター

シニアマネジャー 齋木 大氏

今回の研修会は、日本総合研究所創発戦略センター シニアマネジャーの齋木大氏にお越しいただき「課題整理総括表の理解と基本的な活用について～思考過程を学び、ケアプラン作成の根拠が説明できる～」という題目でご講演いただきました。

課題整理総括表を策定する目的は、利用者様の状態等を把握し、情報の整理・分析等を通じて課題を導き出した過程について、多職種協働の場面等で説明する際に適切な情報共有に資すること、とされています。この課題整理総括表について、齋木氏は、一つのコミュニケーションツールとして使用し、まずは自分自身の考えを整理すること

が大切と言われていました。また、表を全部埋めなくても良いと言われており、課題整理総括表を使用する上でのハードルが少し下がったように思われた方が多かったのではないのでしょうか。今回の研修後のアンケートでも、課題整理総括表の作成意義について理解ができた。少し気楽に活用してみようと思う。大変参考になった。ニーズ(要因)をきちんと出せるようにしていきたい。等の意見・感想が多く書かれていたことでも、大変有意義な研修会だったのではないのでしょうか。



平成 30 年度 第 6 回研修会

「サービス担当者会議 ～基本から実践的工夫まで～」

日時:平成 31 年 2 月 18 日(月) 13:00～

場所:桑名市福祉センター

講師:ふくしの人づくり研究所

所長 奥田 亜由子氏

平成 30 年度第 6 回の研修会は、ふくしの人づくり研究所所長の奥田亜由子氏にお越しいただき「サービス担当者会議～基本から実践的工夫まで～」という題目でご講演をいただきました。ケアマネジャーの方は、サービス担当

者会議において「進捗が上手くできない」「日程を合わせるのが大変」「どこまでの人を呼べばいいのか」などの悩みを持たれたことがあるのではないのでしょうか。今回はチームアプローチの必要性や多職種連携を円滑にするために必要なこと、またサービス担当者会議の意義や目的、円滑に進めるために工夫しなければならないことなどを講義だけでなく事例を基にしたグループワーク、ロールプレイを交えながら行われました。ケアマネジャーはなかなか他のケアマネジャーが開催するサービス担当者会議に参加することはありませんよね。今回のグループワークやロールプレイを通じて実は自己流の会議になっていたのだと気付かされた参加者も多かったのではないのでしょうか。参加者の方々からも、サービス担当者会議を客観的に見ることができて良かった。今までサービス担当者会議の研修がなかったので良い機会だった。サービス担当者会議を行う上で、事前準備をすること、きちんと議題を決めて話をする必要性を改めて学ぶことができた。等のお声が聞かれました。ケアマネジャーの職務を行う上で欠かすことのできないサービス担当者会議。利用者様の代弁者であるという自覚を新たにし、一度自分が行うサービス担当者会議を客観的な意見を交え見直してみることも必要かもしれません。





ケアマネ最新ニュース



※今回も研修終了後にご記載いただいているアンケートのご意見を基に、最新のケアマネ情報をお届けしたいと思います！

Q1.AIを利用してケアプランの作成に取り組む予定はありますか？

この質問に関しては、各事業所の判断になってくるとは思いますが、昨年の10月からケアプランの作成を支援する人工知能のサービスを開始した企業がありますので、ご紹介したいと思います。

～CDI AI ケアプランサービス開始 ケアマネ1人1万円～

シーディーアイ(東京都中央区、岡本茂雄社長)は10月10日より、ケアプランの作成を支援する人工知能「CDI Platform MAIA」(以下、MAIA)のサービスを開始した。AIを使ったケアプラン作成支援ソフトが、広く一般向けに販売されるのは今回が初めて。ケアマネジャー1人あたり月額1万円で利用できる。



「MAIA」は、利用者のADLや日常生活動作能力などを要介護認定項目に従って入力すると、過去に学習した膨大なケアプランの中から、おすすめとなる3つのケアプランを提示してくれるサービス。ケアマネジャーはそれを参考に、サービスを追加・削除したり、回数変更を行ったりする。最大の特長は、「MAIA」が提示したプランや、修正したプランを実施する場合に、ADLの改善度合いなどがレーダーチャートや棒グラフで分かりやすく可視化されるため、利用者の容態予測やケアプランの比較検討が容易に行える点。これにより、ケアプラン作成をサポートするだけでなく、利用者や家族のケアプランに対する理解も深まり、合意形成を得やすくなる効果なども期待できる。サービスを利用するにあたって、特別なソフトウェアのインストールや初期設定などは必要なく、インターネットに接続可能なパソコン・タブレットなどがあれば、すぐに利用できる。利用開始までの流れは、公式ホームページから登録手続きを行った後に、IDとパスワードが発行され、それを入力することでクラウドサービスに接続される仕組み。料金はケアマネジャー1人あたり月額1万円。事業所内で複数のケアマネジャーが利用する場合は、人数分の料金がかかる。 —2018/11/29 配信記事より—

【参照】シルバー産業新聞 http://www.care-news.jp/news/caremana/cdi_ai_11.html

Q2.ケアマネが減少している。募集してもやりたい人がいない。その原因の背景を知りたい。

～ケアマネアンケート試験受験者激減「納得」84%～

介護支援専門員実務研修受講試験の受験者、合格者がともに激減している。現場で働くケアマネジャーは、この事態をどのように受け止めているのか。本紙がアンケートを実施したところ、ケアマネ試験の受験者が激減していることについて「納得できる」と答えたケアマネジャーが84%に達することが分かった。減少理由として現場のケアマネジャーが挙げているのは、介護報酬上で処遇改善が受けられない状況と、ケアマネジャーに対する社会的な評価の低さだ。

「納得できる」と回答したその理由を自由記述で尋ねたところ、「処遇改善加算により、介護職とケアマネジャーとの間の給与に差がなくなってきたり、金銭的の魅力がなくなった」(宮城県、男性)、「調整役として業務や責任など負担が大きい」が、他の職種と報酬が変わらない」(千葉県、女性)、「ケアマネに求められている業務に対する報酬の低さで、ケアマネを目指す人が少なくなっている」(北海道、女性)など、介護職に対する処遇改善が進む中、ケアマネジャーの給与面での魅力が相対的に低くなってきている点を指摘する意見が多かった。

今年10月には、消費税増税分を財源に、勤続年数10年以上の介護福祉士に月額8万円相当の処遇改善策が実施される予定になっており、給与面でのケアマネ離れに拍車がかかる可能性がありそうだ。 —2019/1/31 配信記事より—

【参照】シルバー産業新聞 http://www.care-news.jp/news/caremana/post_1488.html

賃金だけの問題ではないですが、私たちはこのような事態になっていることを知り、今後の動向について常にアンテナを張り、ケアマネの明るい未来の為に、何か出来ることを考えていかなければいけない時期にきているのかもしれない。

編集後記

平成29年度から下記メンバーで、広報部会のお仕事をさせていただいていましたが、早いもので役員の改選時期となりました。研修会アンケートからの、皆様のご意見等が、この広報誌にすべて反映できなかったことをお詫び申し上げます。また、この広報誌を観られて、ケアマネの仕事をしてみようかな、会員になろうかなと思われた方が、おみえになられたのであれば嬉しく思います。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

桑員支部広報部会：安藤哲也(副支部長) 石原太一(部長) 白井渉(副部長) 小川隆央 平林恵美子